

## 令和6年度 第4回買物公園エリアプラットフォーム会議 会議要旨

### 【開催日時】

令和6年10月21日（月） 18:30~20:45

### 【開催場所】

旭川市庁舎1階レストラン

### 【会員参加者（敬称略）】

赤松 昌輝, 有馬 準, 柏木 公司, 近谷 岬, 佐藤 祐哉, 四戸 秀和 (Web),  
鈴木 伸治, 高橋 遼太郎, 長尾 英次, 中田 崇太, 蜂須賀 咲来, 三浦 詩乃,  
山田 直人, 旭川市

### 【会議資料】

- ・ 第4回 エリアプラットフォーム会議

### 【会議内容】

- 1 開会
- 2 挨拶（旭川市地域振興部長）
- 3 議事

#### ① まちにち計画の開催結果報告

- 事務局より、資料「第4回 エリアプラットフォーム会議」に基づき、実験全体の結果として、滞在空間の設置、バスキングエリアの設定、電動モビリティの運行について説明。

#### ② 実験効果検証結果について

- 効果検証業務の受託業者より、同資料に基づき、社会実験期間中に実施した来街者アンケート調査やアクティビティ調査等の各種検討結果について説明。
- 事務局より、買物公園エリアの課題に対する社会実験の効果や、「まちにち計画」を実施したことで新たに得られた効果や課題について説明。

#### ③ 各チームでの振り返りと今後について

- <グループワーク>
  - ・ 各ゾーンで実施したコンテンツや社会実験全体の取組で得られた効果や課題、今後の活動や取組の方向性等について議論を進めるため、グループワークを実施。
  - ・ 議論した内容について、各チームから次のとおり発表を行った。

##### 《ゾーンI》

- ・ 良かった点として、普段見ない活動が行われ、新しいコミュニティが生まれていたことや、ビルに挟まれた空間に人工芝があることのギャップ、アッシュアトリウムと連携した新たな空間の使い方が示されたことなどが挙げられた。
- ・ 課題として、バスキングエリアを滞在空間の近くに設定することや、広報の難しさ、出店者の質の担保、日陰の確保や駅前からの集客強化について意見があった。
- ・ 今後の活動として、取組の継続と、滞在空間の新たな機能として、交流機能や周辺店舗との連携、情報発信の拠点としての役割を強化するとともに、各エリアの特徴を引き出し、企業とのタイアップなども考えられるのではという意見が出た。

## 《ゾーンⅡ》

- ・ 設置物ではパーゴラの汎用性が高く、芝生があることで様々なイベントができ、出店者からの評判は良かったが、滞在空間の沿道店舗との連携が不足し、否定的な意見があったので、沿道店舗の理解を得ることや関わりを作ることの重要性を感じた。
- ・ コンテンツは、日によって全く異なるイベントを実施することができ、出展者に様々な選択肢を与えることができたと思うが、告知不足により集客できなかったイベントもあったので、そこは改善していきたい。
- ・ 今後の取組として、継続的にイベントを開催できたら良いということと、コミュニティ作りを優先し、次年度以降に向けた組織づくりを進めていければと考えている。

## 《ゾーンⅢ》

- ・ テーブルや観光案内、ショップカード、サイクルラックの仕掛けは良かったが、質の向上や、どのように持続するかということが課題として挙げた。例えば、テーブルを家具作家のコンペ形式にしたり、観光案内所やショップカードを1階に設置したり、サイクルラックをもっと目を引くデザインや素材にするなどのアイデアがあった。
- ・ 地図については、観光案内をする上で必要なものだと感じているが、既存の組織と連携し、誰もが使える仕組みにしていくことが重要である。
- ・ 全体を通して、情報発信や既存組織との連携を強化し、協力体制を構築することが持続可能な取組を進める上で大きな課題だと考えている。

## 《ゾーンⅣ》

- ・ 1条から7条の回遊は、距離の問題やエリアの特色の違いがあって難しいため、まずは滞在時間を延ばして、各エリアの魅力を知ってもらうことが重要との意見が出た。
  - ・ エリプラの下に、情報共有や出展の呼び掛けができる組織がもう一つあっても良いのではという意見や、エリプラ企画を増やすと継続が難しいので、お店を持っていない人でも関わることをできる仕組みを作るべきではという意見もあった。
  - ・ 滞在空間の設置期間をもう少し長くして、雪解けから食べマルシェの時期まで使えるようにしても良いのではという意見もあった。
- 各チームの発表を踏まえ、参加者から、次のような意見があった。
  - ・ 次年度に向けて、さらに質を高めていきたいという意見が多く出たことが嬉しい。調査結果だけでは測れない、コミュニティのつながりやポジティブな変化を大事にしながら、地元企業との連携や財源確保についての議論を進めていきたいと感じている。
  - ・ 買物公園の「関係人口」を増やすことが社会実験の目的だと考えており、関係者に今回の検証内容を早めに共有した方が良かったと思った。また、次にどうするのかを今の時期に議論することが大事であり、通年で実施できること、集まることのできる場を設けることが、今後の成果につながると考えている。
  - ・ エリアごとに異なる滞在空間を設置し、同時多発的に活動が起きる状況を作り出していることに可能性を感じた。自由な空間は人と人との関係性の中で作られるという考えが印象に残ったので、検証内容を今後のまちにち計画にしっかり反映させたいと思う。

### ④ 今後のスケジュールについて

- 事務局より、今後のスケジュールについて説明。

## 4 閉会